

[奨励賞] 透明で強い「PPSUサニタリー管」



代表取締役
木田 行則 氏

株式会社KDA

〒144-0055 東京都大田区仲六郷4-2-1

TEL. 03 (3733) 3851

<http://www.kda1969.com/>



透明で耐熱性が高く、薬品や衝撃にも強いスーパーエンジニアリングプラスチックであるPPSU（ポリフェニルスルホン）を原料に使用したサニタリー管。食品や医療品などを生産する工場では、異物混入などを防ぐため製造過程を可視化する必要があり、配管の一部が透明なガラス管になっているケースが多い。ガラス管の場合、衝撃で破損するとガラス片が食品などに混ざってしまう危険があるが、PPSUサニタリー管は樹脂製のため、衝撃で破損することはなく安全だ。

一般的なPPSUサニタリー管の場合、管の肉厚が薄く、「フェルール部」という管両端のくびれ状の連結部を別部品で製造している場合が多い。同社はPPSUサニタリー管の独自製造技術を持ち、厚さ10ミリメートル超という一般の射出成形では難しい肉厚製品を実現した。フェルール部は別部品ではなく、管の両端を旋盤加工で形成しており、強度的に優れている。

同社独自の製造技術を活用しており、肉厚だが気泡や異物の混入はなく透明度も高い。ガラス管の場合、補強構造の支柱などがあり内部を観察するための視野が限られるが、同製品は管全体が透明であり、見られる範囲が広い。

1本の長い管を長さに合わせて切断、両端加工するため、射出成形に比べ製造コストは割安だ。製造設備も自社で開発しており、量産も容易という。現在は、食品メーカーを中心に、2000本、4000万円の販売実績を持つ。テスト購入の事例も多く、販売実績はさらに伸びる見通し。化粧品や医薬品、半導体分野などにも導入を目指し展開している。